

2012年センター報告・日誌

左右田文庫保存事業

平成20年度より一橋大学後援会より奨学寄付金の助成を受け、左右田文庫の保存修復作業を行っている。全資料に対して劣化状況を調査すると共に、保存修復が必要な資料に対しては、保革油塗布、保護ジャケット・保存容器の作製、ページ修理、保存製本等の処置を施している。こうした保存修復作業は、製本家・書籍修復家からの指導を受けながら、センター内に設置されている貴重書保存修復工房のスタッフにより行われている。本事業は平成24年度いっぱいまで完了する予定である。

左右田文庫遡及入力

保存事業に並行して行ってきた左右田文庫目録の国立情報学研究所総合目録データベースへの遡及入力作業が完了した。これにより左右田文庫所蔵資料全点の書誌データをインターネット上で検索できるようになった。

近代ヨーロッパ社会科学貴重書遡及入力

近代ヨーロッパ社会科学貴重書（貴J）目録の国立情報学研究所総合目録データベースへの遡及入力を行った。これにより近代ヨーロッパ社会科学貴重書全点の書誌データをインターネット上で検索できるようになった。これ以外の一般貴重書やギールケ文庫についても順次遡及入力作業を進めている。

科学研究費助成事業（1）

平成23年度より科学研究費補助金（「西洋社会科学古典資料の書誌学的調査に基づく印刷地推定法に関する実証的研究」、基盤研究（B）、平成23年度～25年度、課題番号：23330066、研究代表者：山崎耕一）の助成を受け、社会科学古典資料センターが所蔵する1530年から1800年に刊行されたすべての資料を対象に、古版本の書誌学的特徴と印刷地との関係についての調査を行っている。

科学研究費助成事業（2）

平成24年度より科学研究費補助金（「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究」、挑戦的萌芽研究、平成24年度～26年度、課題番号：24650125、研究代表者：江夏由樹）の助成を受け、社会科学古典資料センターが所蔵するメンガー文庫、フランクリン文庫などに含まれる17～19世紀の西欧人がロシア・東アジア各地を旅行した際の記録である書物について、内容分析を行っている。

科学研究費助成事業（3）

平成24年度より科学研究費補助金（「ロブリエール家文書を取り巻く世界—フランス貴族所領経営と領主文書の謎を解く」、挑戦的萌芽研究、平成24年度～26年度、課題番号：24652150、研究代表者：大月康弘）の助成を受け、社会科学古典資料センター所蔵フランクリン文庫に含まれる『ロブリエール家文書』の分析を行っている。『文書』は、中世後期からア

ンシアン＝レジーム末期までの所領管理の記録群として注目に値するものであり、これにより14世紀後半～18世紀末のフランス所領経営の実態解明が期待される。

科学研究費助成事業（4）

日本学術振興会の平成24年度「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」事業の助成を得て、若い世代に対して貴重な文化遺産を後世へ継承する重要性を伝えるため、中・高校生向けセミナー「本を残す 本を伝える―書籍の保存と修復」を7月16日に開催した。当日は、青森など遠方からの参加者も含め8名の中学生・高校生が、普段は利用者の入庫できない貴重書庫で、14世紀に作成されたマグナ・カルタ写本や、フランス王ルイ14世のサインの入った公文書などを間近で見学した。また、保存修復工房スタッフの指導のもと、和紙を用いた修復や、針と糸を使った製本作業に挑戦した。参加者からは「500年前の本でもきちんと読めるように保存してあって驚いた」「修復や製本は地味な作業だが本にとって大事なことだと思った」など、書籍に対する関心を深めたことが窺える多くの感想が聞かれた。

特別資料展示

研究成果の社会還元の一環として、5月9日から6月5日まで2種類の特別資料展示を行った。「ミラボー『モーゼス・メンデルスゾーンについて』（1787年）をめぐって」は、ミラボー伯爵が18世紀ドイツ啓蒙思想の哲学者モーゼス・メンデルスゾーンについて論じた著作の意義と背景を紹介したもの。「ヒューム『宗教の自然史』の思想圏」はD・ヒュームの『宗教の自然史』（1757年）を手掛かりに、啓蒙思想周辺の宗教起源論の系譜を歴史的に振り返ったものである。特別資料展示の内容については、センターのホームページで紹介している。<http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/education/exposition/index.html>

第13回西洋古典資料保存講習会

下記の内容で、7月2日（月）から7月4日（水）まで3日間開催し、全国の国公立大学図書館等から10名が参加して、実習を中心に行った。

1. 保存計画のための材料と環境 増田勝彦（昭和女子大学教授）
2. 劣化調査と保存計画 増田勝彦
3. 製本構造、調査票の活用、クリーニング、書見台、保存容器、保存製本
岡本幸治（製本家・書籍修復家）

第32回西洋社会科学古典資料講習会

下記の内容で、11月7日（水）から11月9日（金）まで3日間開催し、全国の国公立大学図書館等から32名が参加した。

古典研究

- (1) 近現代ドイツにおける哲学者と哲学書
加藤泰史（一橋大学大学院社会学研究科教授）
- (2) ジャン＝ジャック・ルソーをめぐって

山崎耕一（一橋大学社会科学古典資料センター教授）

(3) アダム・スミスと現代経済学

木村雄一（埼玉大学教育学部准教授）

書誌学

(1) 記述書誌を“読む”面白さ：図書館員のための書誌学入門

武者小路信和（大東文化大学文学部准教授）

(2) 西洋古典資料の目録作成

床井啓太郎（一橋大学社会科学古典資料センター専門助手）

福島知己（一橋大学社会科学古典資料センター専門助手）

(3) 中世英詩と書物：手書き写本と初期印刷本に見られる作者像の変遷

小林宣子（東京大学大学院総合文化研究科准教授）

資料展示論

(1) 展示の方法論と歴史の変遷：西洋近代美術史からの視点

小泉順也（一橋大学大学院言語社会研究科准教授）

保存・修復

(1) 歴史的製本の修理について

岡本幸治（製本家・書籍修復家）

(2) 材料と環境

増田勝彦（昭和女子大学大学院生活機構研究科教授）

社会科学古典資料センター見学（書庫・所蔵資料・貴重書保存修復工房）

日誌（2012年1月～12月）

3月31日 一橋大学社会科学古典資料センター年報 第32号発行

3月31日 Study Series No. 66：松浦義弘「「テルミドール9日のクーデタ」と48セクションの軍人組織」発行

3月31日 Study Series No. 67：吉川也志保復刻「フランス第二帝政期の帝室図書館と帝国図書館に関する委員会議事録（上）」発行

5月9日～22日 特別資料展示「ミラボー『モーゼス・メンデルスゾーンについて』（1787年）をめぐって」開催

5月23日～6月5日 特別資料展示「ヒューム『宗教の自然史』の思想圏」開催

5月24日 第13回社会科学古典資料センター専門委員会

議題：1 平成23年度決算報告について

2 平成24年度事業計画について

3 平成23年度事業計画について

4 展示会資料貸出要項の制定について

5 科学研究費助成事業について

6 「ひらめき☆ときめきサイエンス」の実施について

7月2日～4日 第13回西洋古典資料保存講習会 開催

7月16日 ひらめき☆ときめきサイエンス「本を残す 本を伝える -書籍の保存と修復」開催

11月7日～9日 第32回西洋社会科学古典資料講習会開催

11月30日 Study Series No. 68：マリア＝ベトレム・カステラ＝イ＝プジョルス著、山崎耕一訳
「見えざるフランス革命 通信の統制から見た法と秩序（フランス、1789年-1795年）」発行

12月1日 江夏由樹経済学研究科教授（附属図書館長）センター長に再任（2010年～）

利用状況（2012年1月～12月）

開館日数 232日

利用者 71人

（学内）25人

（学外）26人

（文献複写）20人

利用冊数 126冊

複写冊数 47冊